

教育フォーラム 市長メッセージ

皆さん、こんにちは。横須賀市長の上地克明です。

本日は、ご多忙の中、教育フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。まずは心からの御礼を申し上げます。

さて、今年度は、横須賀市の教育の根幹を定める教育大綱と教育振興基本計画の策定の年となっており、この策定に当たり本日は、皆さまからのご意見やお考えを、是非ともお伺いしたいと思っております。

第1部では皆さまのそれぞれのお立場で、子どもたちへの思い、教育へのお考えなどを、ご発言いただいたことと思います。この後の第2部においては、本日のテーマである「横須賀市の目指す子ども像および教育の姿」に対し、是非、夢や理想も交えていただき、忌憚のない更なるご意見をいただきたいと思っております。

そこで、第2部の冒頭にあたり、私の考える「教育のあるべき姿」について、一言、申し上げさせていただきたいと思っております。

端的に申し上げますと、それは児童生徒に対し、次の3つの事項を習得させることに加え、「生き抜く力」を身に着けさせることにあると思っております。

一つ目は「柔軟な発想と豊かな感性」です。

二つ目は「助け合う心と思いやり」です。

そして最後の三つ目は「感謝の気持ち」です。

これら3つのことを土台とし、更に「生き抜く力」を身に着けさせることが、教育のあるべき姿と私は考えています。

「生き抜く力」とは、よく言われる「生きる力」よりもずっと主体的であり、どんな時代、どんな社会においても、一人の人間として生

きていくための不変の真理です。

特にこのコロナ禍においては、それが顕著に表れていると感じております。

未曾有の危機によりこれまでの常識が通用しなくなり、新たな価値観が生まれています。また、感染された方などに対する差別や偏見に加え、人種や民族、思想に対する差別などが散見されるようになりました。そしてこのコロナ禍においては、エッセンシャルワーカーの皆さまをはじめとし、献身的な行動をされている方々、すなわち感謝の気持ちを伝えるべき方々が多くいらっしゃいます。

このような現代社会を、一人の人間として主体性を失わずに生きていくためには、まさに、先ほど申し上げた3つのことと「生き抜く力」が必要不可欠であると強く思っています。

また、この「生き抜く力」とは、年齢を重ねるごとに意識することが薄れていくものと思われがちですが、私は決してそのようなことはなく、むしろ生涯にわたり「人間らしく生きる」ためにますます必要なことだと思っています。

人生100年時代と言われるようになり、ひと昔前と比較すると、人生のターニングポイントは、これまで以上に多くなりました。そのターニングポイントを迎えたときに、主体性をもって正しい選択ができるかどうか。運命の突然の転換点に対する準備は万全かどうか。この時こそ、その人が備える「生き抜く力」が試される時であり、教育のあるべき姿の結晶が現れる時だと考えています。

以上、私の「教育のあるべき姿」に対する思いとして、「生き抜く力」について述べさせていただきました。これから始まる第2部が、多くのご意見が活発に交わされ、皆さんにとりましても有意義な時間となることを切に願っております。

本日は誠にありがとうございます。